

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No. 15

日本デイケア学会広報委員会
2007年6月25日 発行
日本デイケア学会事務局
東京都文京区本郷2-25-14 第1ライトビル3F
(有) エム・シー・ミュージズ内
TEL: 03-3813-6368
FAX: 03-3813-6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
http://www.daycare.gr.jp

**日本デイケア学会第12回年次
大会札幌大会を「創る」**

～参加する側から「創る」側での経験から得たもの～

高瀬 裕美

日本デイケア学会第12回年次大会in札幌大会が開催されるまで、残すところ数か月になりました。今日まで多くの諸先生方や諸先輩、札幌大会と一緒に支え御支援・御賛同頂いている多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。

特に一般演題「精神科」の演題は、本当に大多数の応募を頂きました。全国のデイケアの臨床現場からプログラムの合間を縫ってであろうかという時間帯にも多数のお問い合わせを頂き、お話をすることが多くありました。電話の向こう側から感じられる、生きている現場の空気あるいはそのデイケアスタッフのひたむきな熱意をこれほど感じることは、これまでの職業人生の中でもそうあるものではありません。

札幌大会のテーマは「デイケアの本格的転機に立ち向かう一障害者自立支援法施行・介護保険法改正一」ですが、今回の経験から改めて印象的であるのは、デイケアスタッフはメンバー同様、時代の流れに敏感で、かつ永遠に「自分たちの試みを伝えたい」「その試みにフィードバックをして欲しい」「語り合いたい」のだと強く感じたことであります。法改正により、デイケアがどのようなポジションに向かっていくとしても、デイケアを支えていく「スタッフの気概」は、語り継がれていかなければいけないとつくづく感じさせられるのです。

その「感動」が、大会事務局としての膨大かつ多忙な業務に「力」を与えてくれます。

札幌大会運営委員会は、デイケアに熱意のある北海

道の医療機関、札幌市の行政・医療機関・大学・専門学校等の医師・専門職で構成されました。所属・職種・立場・環境がすべて異なる運営委員構成になりました。「デイケアへの想い」は、運営委員にとっても各々の職種や立場によって異なる意見・アイディアがあって当然で、逆にだから「面白み」も生まれます。一歩前進、二歩躊躇、更に前進をして今日に至ります。

このような表現はお叱りを受けるかもしれませんが、運営委員会を通して学会を「創る」ことは、デイケアの「話し合い」「ミーティング」等に似ているように思います。いわば「集団」です。「集団」も生きていますからその時々「温度」「明度」「静と動」「キーパーソン」などが、その時の集団の雰囲気や左右します。が、表面上に出てきづらい「静」を引き出すことの大切さが、非常に酷似していると感じます。

今回の経験で、大原則である「デイケアは、デイケアスタッフはメンバーさんによって成長させられること」、そしてデイケアの「果実」の「価値」を知っているのと知らないのとでは、大会を「創る」ことを「大変」だと感じるか「喜び」だと感じるか・・・の一言に尽きると思います。

私には、この「札幌大会に出逢う」あるきっかけがありました。日本デイケア学会は毎年行われてきた歴史の中で参加できる年は参加をし、演題を発表する機会もありましたが、正直、学会を開催する側になるなどとは夢にも思いませんでした。PSWとしての職業経験の中でも忙しい事にかまけて組織的活動に積極的であったとは到底言えない状態でした。

数年前に「北海道リハビリテーション研究会」を開催した時、日本デイケア学会理事長 柏木昭先生をお招きし、その時に私のような若輩者が初めて柏木先生とお話させて頂く機会がありました。その当時PSWと

しても自分という「人間」にも迷いがあった頃でした。その壁は自分がPSWになった動機にもつながることでした。精神科の門を叩いて19年になりますが、PSWになった動機の背景には未治療の統合失調症の母と同居していたこともあり、母を治療につなげるための家族の役割とは何かを追い求めていました。幸いなことに母は薬を飲んでくれるようになり安定しましたが、その後自分自身が迷いの渦に入り込んでしまいました。

そのような折、柏木先生は黙って私の話をお聞きになりそして、『ただひたすらに、「自分はいかに」「自分というPSWとはいかに」を考えてみては如何ですか?』と言われたことが、現在もPSWの仕事をしている理由です。

その柏木先生が日本デイケア学会の理事長であることも知っていましたので、デイケアについてのお話をしていた時に、『2007年のデイケア学会は札幌で』という先生自らの言葉を聞き、驚愕したのを覚えております。それが札幌大会との出逢いです。

日本デイケア学会第12回年次大会in札幌大会は、平成19年9月13日(木)～15(土)の予定で行われます。札幌市中心部に横断する大通公園に吹く9月の風はとても気持ち良く、是非「北海道に来て元気になった」と感じて頂きたい想いでおります。

学会は、講演・シンポジウム・分科会・鼎談会の他に、ランチョン当事者企画・デイケア作品アート展・参加者参加企画(参加者によるコラージュ展)、見学会コース・懇親会を予定しております。

是非、皆様の多数の参加をお待ちしております。

(北海道/日本デイケア学会第12回年次大会札幌大会事務局長
医療法人社団三浦メンタルクリニック 医療相談室長)

デイケア事始の記

～多職種連携複合機能として～

高江洲 義英

最近のデイケアの広がりにはめざましい勢いがある。30年前のわが国の精神科病院では、「生活療法」の名のもとに各種の作業・表現活動が試みられていた。

そのころから「作業療法」「理学療法」「デイケア」などが保険適応として取り入れられ、瞬く間に全国の施設に広がっていった。

日本芸術療学会の前身である「芸術療法研究会」が始まったのが1969年であり、この頃から、わが国のOT、デイケアなどの部門が機を一にして展開されていった。

たとえば、昭和40年代の福島県のある民間精神科病院では、バラ園作り、さつき苗作り、芋煮会、松林の管理と散歩などが日常的に行われ、並行して絵画療法、音楽療法、心理劇、ムーヴメントセラピー、箱庭療法、文芸療法などが入院および外来患者にむけて試みられていた。このような生活療法の導入は、当時、全国の精神科病院で試みられていたと思う。

今日との差異は、治療的視点による適応と操作、作品の分析、あるいはチーム医療の連携のあり方にあるだろうか。今日わが国では、OT(作業療法士)、PT(理学療法士)、ST(言語聴覚士)、CP(臨床心理士)、PSW(精神保健福祉士)、AT(芸術療法士)、MT(音楽療法士)、HT(園芸療法士)などの多職種多機能多技法連携によるチーム医療の複合的あり方が問われている。私どもの病院では、フランスのラ・ボルド病院との連携のもとに、院長のJ. ウリ先生や、副院長であったF. ガタリ先生、現副院長のダニエル・ルロ先生などとの直接の交流を重ねつつ、制度論的精神療法(psychotherapie institutionnelle)を導入しているが、大切なことは多職種によるこのような治療機能の共有である。

困ることは、パートや分業化によるチーム医療の崩壊であろうか。かつての「生活療法」の経験をふり返し、「生きがい療法」の精神を視つめつつ、わが国のデイケア制度の内包する今日的複合機能を充実させていきたいと思う。

(沖縄県/いずみ病院)

日本デイケア学会第12回年次大会札幌大会

大会テーマ **デイケアの本格的転機に立ち向かう**

『新制度(障害者自立支援法・介護保険法改正)施行で新たな実践』

大会長

三浦 彌

わたる

(北海道精神神経科診療所協会会長/医療法人社団三浦メンタルクリニック理事長)

大会URL

<http://www.daycare12.org/>

会 期

平成19年9月13日(木)・14日(金) 学 会

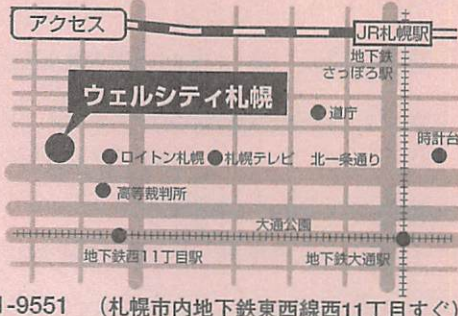
平成19年9月15日(土) 研修会・ワークショップ・
見学会

会 場

北海道厚生年金会館 ウェルシティ札幌

北海道札幌市中央区北1条西12丁目 TEL: 011-231-9551

(札幌市内地下鉄東西線西11丁目すぐ)



プログラム

第1日目 平成19年9月13日(木)

3 F ロイヤルホール

開会式

9:00~9:10

大会長講演

「デイケアの歴史に学ぶ」

9:15~9:50

三浦 彌 (医療法人社団三浦メンタルクリニック理事長)

特別講演 I

「精神保健福祉の動向と精神科デイケアの今後」

10:00~11:30

一障害者自立支援法施行後の障害者の社会参加支援一

築島 健 (札幌市精神保健福祉センター所長)

座長 林下 忠行 (林下病院院長)

高齢者シンポジウム「通所リハ・通所介護の現状と今後一どう変わる老人デイケア実践報告一」

「地域が求める通所系サービスについての考察～地域ネットワークの活動を通して～」

3 F 瑞雪の間

吉岡 秀典 (北海道) 札幌市豊平区介護予防センター東月寒・福住所長

13:00~16:00

「当施設における通所リハの取り組みと課題」

川淵 正敬 (高知県) 介護老人保健施設いごばちデイケア主任

「通所リハで私たちが取り組んできたこと～リハビリ・栄養・口腔の実際とこれから～」

斉藤 久子 (北海道) 医療法人溪仁会西門山病院デイケア室主任

「環境適応に向けて」

福島 雅弘 (北海道) 介護老人保健施設コミュニティホーム白石リハビリテーション課長

座長 井上 崇 (介護老人保健施設伸寿苑副施設長) / 岡本 吳賦 (岡本病院理事長)

分科会(精神科)

3F 蓬萊の間 13:00~15:00	3F 清流の間 13:00~15:00	3F 黎明の間 13:00~15:00	3F 玉葉の間 13:00~15:00
デイケアの機能・評価(1) (8演題)	就労支援(1) (8演題)	プログラム実践(1) (8演題)	個別アプローチ(メンバーとの関わり) (8演題)
15:15~17:15	15:15~17:15	15:15~17:30	15:15~17:30
デイケアの機能・評価(2) (8演題)	就労支援(2) (8演題)	プログラム実践(2) (9演題)	SST・心理教育・その他 (9演題)

デイケアアート・デイケアプログラム紹介展

3 F 鈴蘭の間

終日

懇親会

3 F 瑞雪の間

18:00~19:30

第2日目 平成19年9月14日(金)

精神科シンポジウム

「精神科デイケアの新しい試み」

3 F ロイヤルホール

9:00~11:50

「診療所デイケアにおける新しい試み」

原 敬造(宮城県)原クリニック院長

「高次脳機能障害のデイケアの経験」

中川 有(北海道)札幌デイケアセンターデイケア課長

「デイケアでのうつ病認知療法の試み」

仲本 晴男(沖縄県)沖縄県総合精神保健福祉センター所長

「デイケアの中の旧くて新しい森田療法」

山田 秀世(北海道)大通公園メンタルクリニック院長

「デイケアの復職支援(リワークカレッジ)」

五十嵐良雄(東京都)メディカルケア虎ノ門院長

座長 田辺 等(北海道立精神保健福祉センター所長)/長谷川直実(デイケアクリニックほっとステーション院長)

ランチョン特別企画

ーデイケアメンバーによる「笑顔の私達を披露します」ー

3 F ロイヤルホール

(各デイケアのメンバー達がダンス・ハンドベル・合唱等の披露をします)

12:00~12:50

総会

3 F ロイヤルホール

(総会から記念講演の間、休憩時間はありません。総会からご参加下さい)

13:00~13:30(予定)

記念講演

「歴史に学び、時代の要請に応えるデイケア・デイサービス」

3 F ロイヤルホール

柏木 昭(日本デイケア学会理事長・聖学院大学大学院教授)

13:30(予定)~14:10

特別講演Ⅱ

「精神科デイケアとは何か、そのねらいと方法と果実」

3 F ロイヤルホール

伊東 嘉弘(桑園病院顧問・元札幌デイケアセンター所長)

座長 澤山 浩之(手稲病院院長)

14:20~15:00

鼎談会

「これからのデイケア~次世代のリーダーの役割」

3 F ロイヤルホール

柏木 昭(日本デイケア学会理事長・聖学院大学大学院教授)

14:20~15:00

伊東 嘉弘(桑園病院顧問・元札幌デイケアセンター所長)

直江 裕之(直江クリニック院長)

司会 窪田 彰(錦糸町クボタクリニック院長)

分科会(精神科)

分科会(高齢者)

ポスター(精神科)

3F 清流の間

3F 黎明の間

3F 玉葉の間

9:00~11:30

9:00~10:30

9:00~10:00

プログラム実践(3)・
地域生活支援・連携
(10演題)

プログラム実践・運営・スタッフ取り組み・
認知症・リハビリ訓練・その他
(6演題)

プログラム実践・就労支援・
その他(精神科)
(6演題)

10:40~11:55

10:15~11:15

プログラム実践・運営・スタッフ取り組み・
認知症・リハビリ訓練・その他
(5演題)

プログラム実践・就労支援・
SST・心理教育・その他(精神科)
(6演題)

デイケアアート・デイケアプログラム紹介展

終日

3 F 鈴蘭の間

閉会式

16:40~17:00

3 F ロイヤルホール

第3日目 平成19年9月15日(土)

研修会(精神科)

「デイケアが行う就労支援」

3 F 清流の間

講師 倉知 延章(九州ルーテル学院大学人文学部教授)

座長 三品 育

9:30~11:30

研修会(精神科)

「精神科デイケア治療一構造と方法一」

3 F 黎明の間

講師 浅野 弘毅(東北福祉大学健康科学部教授)

座長 中野 英子

9:30~11:30

研修会(高齢者)

「認知症の理解と対応一診断、治療、介護から予防まで一」

3 F 玉葉の間

講師 宮澤 仁朗(ときわ病院院長)

座長 林下 忠行

9:30~11:30

ワークショップ

3 F 鈴蘭の間

テーマ「なまら熱いんでないかい?ーみんなしゃべりたいべさー」

9:30~11:30

※「デイケア実践」という共通の活動基盤を持つ参加者が、様々な意見を交換する機会です

見学会

Aコース デイケアクリニックほっとステーション(札幌市中心部のビル診療から展開する究極の就労支援)

Bコース 五稜会病院(急性期治療から、心の癒しとしての治療を提供するストレスケア病棟のこだわり)

Cコース さっぽろひかり福祉会(授産施設・支援センターを見学。地域に根ざした活動についてご紹介)

児童思春期にはデイケアが適している

大嶋 正浩

7年間関東中央病院でどっぷり入院治療を経験して、平成15年に浜松に戻って子どもの臨床にチャレンジしました。児童精神科というのは、幽霊みたいなもので何の保証（専門の点数は最近ちょっとついたぐらいです）もなく、児童の心の臨床に携わりたいちょっと子どもっぽい精神科医の集まりみたいなものです。子どもっぽいという怒りかもしれませんが。そんなわれわれが、すがっているのはデイケアという枠組みです。入院治療のように親や地域から離す訳ではなく、しかし、親や地域とは異質の文化を持った奇妙な空間を保障できるわけです。失敗してもいい、気持ちを受け止め、気持ちで行動する、寂しさや辛さを表明しても聞いてくれる人がいる、しかし、周囲が耐えられないほどのしがみつきや振り回しにはストップをかける現実感を維持し、ゆっくりと情緒や社会性が育つのを待つ空間、そんなコンセプトでやっています。成人の精神障害や嗜癖のグループとはちょっと違うコンセプトかもしれませんが、児童思春期の専門性を出すとこんなグループになります。こういう空間を維持することが児童思春期の患者さんにとっては治療的で適していると思われる。

言うのは簡単ですが、運営はひどく大変です。毎日飛び出す子がいたり、急に叫びだす子がいたり、反対にべったり依存的になる子がいたり、人の中にいるだけで混乱してしまう子もいます。そういった子を一時はかなり受容し、ある程度安定してきたら、ダメはだめと枠をはめ、少し力がついてきたら社会に出る模範的なさまざまな活動に誘い、最後は外の世界に出るようにプッシュします。しかし、クリティカルパスのような流れを作ることは難しく、一人ひとりオーダーメイドです。毎日事件が起こっているといっている状態です。

前後しますが、構造的には、床面積はあわせると100坪ほどになりそれに運動場とホールがついています。ニーズに合わせ増築と借金の繰り返しです。小中学生の5~8人ぐらいのグループと、その後の思春期のグループ（30人ぐらい）が中心ですが、15年もやっていると、思春期というにはという人も出てきています。そのため、合計人数は50人ぐらいになってしまいましたので、大規模デイケアでスタッフも10人以上関わっています。さまざまなメニューに関しては、またの機会にします。

ウチの法人では2ヶ所のクリニックをやっていますが、同じようなコンセプトで隣の市で児童精神科

医仲間が2ヶ所の児童思春期の外来とデイケアをやっています。4ヶ所のうち3ヶ所は運動場つきです。また、どのクリニックも心理のカウンセラーを複数抱えて子どもの精神療法にちからを入れています。全国的には特徴のある地域かと思います。

（静岡県／医療法人社団 至空会 メンタルクリニック・タダ）

精神科病院附属大規模 デイケアの毎日

羽原 俊明

当院デイケアは病床600床の精神科病院に附属したデイケアで、認可を取得してから26年になります。利用者の数は年々増加し、現在登録者が220名、一日の利用者数は100名を超えています。平均年齢は48歳、統合失調症の方が約9割を占め、約4割の方が単身生活者で、その割合は徐々に増加してきています。デイケアの建物は昨年新築し、3階建てとなり、ゆったりとしました。

このように利用者が多いことで、スタッフにとっては大変なことも多いようです。毎日休憩時間もなく仕事をしています。当院のデイケアは、診察、処置などの医療行為を毎日デイケア内で行っていることが特徴となっていますが、スタッフの仕事が確実に増えてしまいます。プログラムの運営、利用者からの相談への対応、病状の把握および対応、その日に来所していない利用者からの電話相談、ご家族からの電話への対応、それぞれの利用者のケアプランの定期的な作成、評価、その日の各利用者の記録などなどです。また、利用者がデイケア以外で利用している、作業所、職親への訪問など外回りの仕事も頻繁にあります。また、精神科病院附属のデイケアであることから、病状が不安定な時期をデイケアで過ごす利用者も多く存在し、治療、看護業務もかなりの比重を占めています。入院中から退院後の生活に向けて利用を開始している方もかなりの数に上ります。ひとりひとりの利用者とはゆっくり会話したり、共に時間を過ごすことが非常に難しい状況にあります。スタッフは毎日、今日一日何ができたのだろうと不安になることもしばしばです。それでも何とか日が過ぎていくのは利用者ひとりひとりの力のおかげと感謝しながらの毎日です。

今後、早期退院が言われ、病状が安定していない時期の方が増えることが予想されますが、この方々を支えるシステムのひとつとして、精神科病院附属デイケアは、より医療的サービスを求められてくると思われます。そのときに、福祉的サポートシステムがより充実していることを期待しています。

（岡山県／慈恵病院）

日本デイケア学会役員

理事長: 柏木 昭, 副理事長: 小林暉佳, 齋藤和子, 監事: 弘末明良

理事: 浅野弘毅, 池田良一, 岩尾 貢, 榎本 稔, 大丸 幸, 荻澤健志, 小野寺敦志, 吉川武彦, 窪田 彰, 佐々木千鶴子, 高林健示, 西村良二, 松永宏子(事務局長), 松田ひろし, 良田麗明

評議員: 五十音順

浅井邦彦(DR千葉), 浅野弘毅(DR宮城), 池田良一(DR千葉), 岩尾 貢(PSW石川), 内田洋一(OTR茨城), 榎本 稔(DR東京), 大丸 幸(OT福岡), 荻澤健志(CP 東京), 尾崎多香子(PSW東京), 小野寺敦志(CP東京), 加護野洋二(DR大阪), 柏木 昭(PSW埼玉), 川副泰成(DR千葉), 吉川武彦(DR東京), 窪田 彰(DR東京), 熊倉徹雄(DR福島), 栗原活雄(PSW東京), 栗原 毅(CP千葉), 小杉好弘(DR大阪), 小林暉佳(DR東京), 小谷野博(CP東京), 齋藤和子(NS千葉), 桜庭 繁(NS京都), 佐々木千鶴子(CP宮城), 高江州義英(DR沖縄), 高林健示(CP東京), 田中英樹(PSW東京), 津尾儀典(DR岡山), 長瀬輝誼(DR東京), 西園昌久(DR福岡), 西村良二(DR福岡), 原 敬造(DR宮城), 平川淳一(DR東京), 平田豊明(DR千葉), 弘末明良(DR東京), 藤井康男(DR山梨), 穂積 登(DR東京), 堀内久美子(OT東京), 松田孝治(DR大阪), 松田ひろし(DR新潟), 松永宏子(PSW東京), 三浦 彌(DR北海道), 山中恵子(OT東京), 良田麗明(DR東京)

委員会

組織委員会: 弘末明良(委員長), 榎本 稔, 齋藤和子, 松永宏子(事務局)

広報委員会: 榎本 稔(委員長), 栗原活雄, 小谷野博, 坂田直之, 佐々木智子, 高林健示, 松永宏子(事務局)

研修委員会: 松永宏子(委員長), 井上牧子, 川副泰成, 栗原 毅, 内藤 清

編集委員会: 浅野弘毅(委員長), 池田良一, 大沼幸子, 荻澤健志, 小野寺敦志, 川副泰成, 齋藤敏靖, 山中恵子, 松永宏子(事務局)
(査読委員: 岩下 寛, 是恒正達, 佐々木千鶴子, 田中英樹, 松田ひろし)

調査研究委員会: 小林暉佳(委員長), 小野寺敦志, 窪田 彰, 長瀬輝誼, 平川淳一, 松永宏子(事務局)

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約900名の会員があり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 入会金および年会費

正 会 員: 入会金1,000円 + 年会費 8,000円 = 9,000円

団体会員: 3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円 = 25,000円
(3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください)

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-14 第1ライトビル3F (有)エム・シー・ミューズ内
日本デイケア学会事務局

TEL&FAX: 03-3813-6368 e-mail: info@daycare.gr.jp URL: http://www.daycare.gr.jp

キリトリ線(ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。)

入会申込書(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名	フリガナ		性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
職種			所属先名称 (勤務先)						
所属先 所在地	〒				電話番号	()			